

青梅上成木ふれあいの森

活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 III

1. 実施日 平成27年6月20日

2. 観察ルート 里仁会館～都道202号～常盤林道～大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～スマレの道～リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い（大滝作業道口）～常盤林道～都道202号～里仁会館

A. 里仁会館～常盤橋（都道202号沿い）

- ・ヒメジョオン（姫女苑）キク科ムカシヨモギ属の北米原産の1～2年草 山野から人家近くの道沿いなどで多く見られる。春先から咲いていた同じ仲間のハルジオン（春紫苑）もまだ多く見られる。
- ・ドクダミ（葎）ドクダミ科ドクダミ属の多年草 梅雨の季節を代表する植物で、通称ジュウヤク。独特な臭気が特徴で山野より人家近くに自生する。都道202号沿いに群生状態で見られる。
- ・カラスビシャク（烏柄杓）サトイモ科ハンゲ属の多年草 田畑などに蔓延り、繁殖力が強く農家には嫌われ者の雑草。
- ・オトギリソウ（弟切草）オトギリソウ科オトギリソウ属の多年草 里仁会館近くで数株の自生を確認したが、まだ蕾状態で間もなく開花。



ヒメジョオン



ドクダミ



カラスビシャク



オトギリソウ

- ・コマツナギ（駒繫ぎ）マメ科コマツナギ属の小低木 草本のように見えるが木本で、都道202号沿いで数株の自生を確認。
- ・ホタルブクロ（蛍袋）キキョウ科ホタルブクロ属の多年草 東日本は淡紅紫色が、西日本には白花がそれぞれ多く見られる。都道202号沿いでは白花のホタルブクロが多く見られる。
- ・エビガライチゴ（蝦殻苺）バラ科キイチゴ属の落葉低木 葉の裏が白いので別名ウラジロイチゴ、夏に熟す果実は甘くて美味。都道202号沿いで蕾状態だが複数株の自生を確認。



コマツナギ



ホタルブクロ



エビガライチゴ

- ・ヤマユリ（山百合）ユリ科ユリ属の球根植物 山野から人家近くの道沿いなどで多く見られる。まだ蕾状態だがこの辺りでは自生数が少ない。
- ・フサザクラ（房桜）フサザクラ科フサザクラ属の落葉高木 早春に咲く花が終わり、特徴的な長い柄のある扁平な実が房状に垂れ下がる。別名タニグワ（谷桑）。
- ・ヤブソテツ（藪蘇鉄）オシダ科ヤブソテツ属の常緑のシダ植物 葉がソテツに似て藪に生えることからこの名がある。



ヤマユリの蕾



フサザクラの実



ヤブソテツ

- ・前回5月の観察時、都道202号沿いで見られたユキノシタ（ユキノシタ科）の花はそろそろ終わり。
- ・里仁会館から常盤橋までの都道202号道路沿いにはこの季節、バラ科のモミジイチゴ、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴなど、野イチゴの実がまだ所々で見られる。

B. 常盤橋～大滝（常盤林道沿い）

- ・常盤橋の少し先の左手山側のイワタバコは岩肌にシダ類など雑草の繁茂がひどく、葉がみな小さく生育状態はあまりよくない。夏に開花できるか今後とも継続的に要観察。
- ・アカショウマ（赤升麻）ユキノシタ科チダケサシ属の多年草 地下の太い根茎が赤いのでこの名がある。
- ・ウバユリ（姥百合）ユリ科ウバユリ属の球根植物の多年草 まだ蕾状態だが常盤林道ばかりでなく、活動エリアの各所で見られる。
- ・コクサギ（小臭木）ミカン科コクサギ属の落葉低木 枝や葉に独特の臭気があるのでこの名がある。



アカショウマ



ウバユリの蕾



コクサギの実

- ・ウリノキ（瓜の木）ウリノキ科ウリノキ属の落葉低木 花はもう終わりで若い実がふくらみはじめ、秋には黒く熟す。
- ・マタタビ（木天蓼）マタタビ科マタタビ属の蔓性の落葉低木 特有の臭気で猫を陶醉させ恍惚状態にさせる「ネコにマタタビ」の諺でもお馴染みで、蕾の時期から開花の頃まで一部の葉の表面が白くなる。
- ・オオバアサガラ（大葉麻殻）エゴノキ科アサガラ属の落葉高木 藤の花のように垂れ下がる花穂がとても美しく、常盤林道ばかりでなく活動エリア内の各所で見られる。
- ・常盤林道沿いの所々でシラネセンキュウ、ミツバなどセリ科の植物が蕾状態や若葉の状態で見られる。



ウリノキの未熟実



マタタビの白い葉と蕾



オオバアサガラ

C. 大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～スマレの道

- イラクサの道入口近くの左右の岩肌のイワタバコ（イワタバコ科）は前回の観察のときより葉がだいぶ大きくなっているが、蕾はまだ見られない。今後も継続的に要観察。
- ツルリンドウ（蔓竜胆） リンドウ科ツルリンドウ属で蔓性の多年草 イラクサの道入口近くのイワタバコの少し先の、前回篠竹で囲いをしたツルリンドウは更に蔓を伸ばして順調に生育しており、今回小さな木片の名札を取り付ける。今後も継続的に要観察。
- サワギク（沢菊） キク科キオン属の多年草 入梅後花数が増え、常盤林道沿いばかりでなく活動エリア内の各所で見られる。
- コナスビ（小茄子） サクラソウ科オカトラノオ属の多年草 足元で咲く小さな黄色い花が可愛いらしい。イラクサの道の沢沿いの所々で見られる。
- イラクサの道途中、三角岩のイワタバコはやはり乾燥化が原因と思われる環境変化のせい、前回同様自生数が少なく、生育状態が悪い。
- ヤマアカガエル（山赤蛙） アカガエル科アカガエル属の両生類 植物ではないがサエズリの道で発見。



名札を付けたツルリンドウ



サワギク



コナスビ



ヤマアカガエル

- マルミノヤマゴボウ（丸実の山牛蒡） ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属の多年草 前回の観察ではまだ蕾状態だったが、今回サエズリの谷の所々で咲いているのを確認。
- トチバニンジン（栃葉人参） ウコギ科トチバニンジン属の多年草 サエズリの谷のツリーハウスの近くで蕾状態だった2株のうちの1株が開花しているのを確認。今回開花し1株に木片の名札を取り付ける。
- サエズリの道からスマレの道へ向かう途中、支沢の出合い付近の左手のイワタバコはやはり年々自生数が減少しており、今回この場所の岩肌全体の数株をカウントしてみた。総株数：23+α（大きな葉の株数：12）。今後も継続的に要観察。
- センブリ（千振） リンドウ科センブリ属の2年草 スマレの道（日向）で前回5月の観察で3株の自生を確認されたが、今回新たに出たばかりで小さいがもう3株の自生を確認し全部で6株となる。新たに見つけた株にも枝切れで暫定的に囲いをし、数ヶ所の囲いに小さな木片の名札を取り付ける。今後も継続的に要観察。



マルミノヤマゴボウ



トチバニンジン



センブリ

- スミレの道（日陰）で葉の状態のヒヨドリジョウゴ、あるいはヤマホロシ（ナス科）の自生を確認。ヒヨドリジョウゴの茎には軟毛があるがヤマホロシにはそれがなく、葉の状態では名前の同定は難しい。
- サエズリの道からスミレの道（日陰）にかけてオオバアサガラ（エゴノキ科）の幼木が、また、ノブドウ（ブドウ科）と思われる葉やアマチャヅル（ウリ科）、アカネ（アカネ科）の蔓が地を這いながら伸びているのがたくさん見られるが、これらは常盤林道沿いなど活動エリア内の各所でも多く見られる。
- スミレの道（日向）のエゴノキ（エゴノキ科）とタンナサワフタギ（ハイノキ科）はそれぞれ花が終わり、エゴノキは細長い丸い小さな実が、また、タンナサワフタギはまだ青い実を付けているが、秋には藍黒色に熟す。
- スミレの道（日向）でコカモメヅル（ガガイモ科）のまだ蔓も伸びていない新芽の状態の自生を確認したが、まだ蔓を伸ばしていない状態では今年の開花は期待できそうもない。
- 前回5月の観察で丸紅看板付近からミズナラの道にかけていくつかの自生が確認されたニシキゴロモ（シソ科）が、今回スミレの道（日向）の近く、看板エリアの上部の斜面でも見られ、もう花は終わりで葉の状態だが数株の自生を確認。

D. リンドウ坂～アジサイの道～酒沢出合い（大滝作業道口）

- 今回もリンドウ坂の東京都環境保全看板近くのツルリンドウの株数をカウント、前回枝分れしたものをすべてカウントして 20 株としたが、今後は分枝したものは 1 株としてカウントすることにしたため今回は 17 株として記録。今後も継続的に要観察。
- **イチヤクソウ（一葉草）** イチヤクソウ科イチヤクソウ属の多年草 リンドウ坂の東京都環境保全看板近く、ツルリンドウから少し下がった左手斜面のイチヤクソウは前回5月の観察で蕾状態だった1株がきれいに開花しており、この周辺に更にいくつかの自生を確認、トータルで 12 株の自生を確認。新たに見つけたすべての株に枝切れで簡単な囲いをし、今回1株だけに小さな木片の名札を取り付ける。間もなく花は終わりだが、今後とも自生状態を継続的に要観察。



ツルリンドウ



イチヤクソウ



- ・ギンレイカ（銀鈴花） サクラソウ科オカトラノオ属の多年草 アジサイの道の途中で数株の自生を確認。秋には丸い小さな実を茎にたくさん付ける。
- ・ヤマアジサイ（山紫陽花） ユキノシタ科アジサイ属の多年草 同科同属のコアジサイに代わり群生状態でアジサイの道一带の斜面を鮮やかに彩っているが、常盤林道沿いをはじめ活動エリア内の各所でも多く見られる。



ギンレイカ



ヤマアジサイ



E. 涸沢出合い（大滝作業道口）～大滝（常盤林道沿い）

- ・涸沢出合いから大滝間の駐車スペース近く、山側岩崖のイワタバコは前回とあまり変わりなく順調に生育していると思われる。今後とも継続的に要観察。
- ・涸沢出合いから大滝にかけての常盤林道沿いにはフサザクラをはじめエゴノキ、オオバアサガラなどの落葉高木や枝や茎に鋭い棘がたくさんあるクマイチゴ（バラ科）と思われる植物が多く見られる。

3. 総括

- ・梅雨に入り数日前から観察前日までの長雨で成木川をはじめ、その流域の支沢は増水しているところが多く、植物の生育には良い環境になってきた。
- ・梅雨に入り夏の植物が多く見られるようになってきたが、この時期は林道沿いを彩っていたユキノシタに代わり、群生状態で生えているドクダミの白い花がとても目立ち、またイネ科やカヤツリグサ科をはじめ、シダ類などが大きく成長して草地を覆っている。
- ・今回もツルリンドウ、センブリ、イチヤクソウの生育状態の観察と自生数をカウントし、それぞれの囲いの一部にかんたんな木片で名札を取り付けたが、今後も継続して観察することに。
- ・林道沿いや大滝周辺など各所にあるイワタバコのモニタリングは生育状態を見て、開花頃までに数か所の場所を特定することに、また、方法については現在検討中。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部